

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所  
事業所名：玉川どんぐり保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 法人の理念である礼節・忍耐・誠実の基本理念に基づき園のグランドデザインをたて、元気いっぱい、笑顔いっぱいのおひさまっ子のキャッチフレーズを掲げ、保育指針の改定に合わせた保育方針、保育課程を作成している。</p> <p>[検討課題] 保育に関わる職員全員が保育課程の理解を更に深めて実践し、評価していくことが期待される。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>□ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 陽あたりもよく、室内も明るく、廊下には園児の作品などを展示したり、季節を感じる壁画が描かれたりしている。また、子どもの見やすい場所には金魚や、夏にはカブト虫などを置いて、子ども達の興味と関心を持つような配慮もある。</p> <p>そして、園庭も自由に遊べ、遊具なども整備されている。一方、諏訪湖からの風や山からの風も強く、また、園庭とテラス・廊下などの段差が少ないこともあり、砂の侵入防止について苦労している模様である。</p> <p>[検討課題] 機器の修繕や砂の侵入防止について更なる工夫や、それでも無理な場合の改善計画を園の中・長期計画に盛り込むなど、良質、且つ、継続的な保育の提供が可能となるような積極的な取り組みを期待したい。</p>
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</li> <li>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</li> <li>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</li> <li>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</li> <li>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</li> <li>■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 一人ひとりの子どもの発達の状態と家庭環境を知り、安心・安定した生活が送れるように支援、援助している。また、毎朝、園の門前で園長が子どもと保護者におはようの挨拶や声掛けを行っている。</p> <p>[検討課題] 子どもに安心感を与え、子どもを全面的に受け入れて肯定的にとらえる言葉の掛け方や、保育が困難な子どもへの保育力を高めるなど、園内、職員間での研修の積み重ねが期待される。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 0～5才までの発達に促した食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、清潔、運動と休息などが、年間の保健計画や保育計画に組み込まれており、一人ひとりの発達の状況にあわせた支援に努めている。</p> <p>[検討課題] 年間の計画の中で、各年齢ごとに排泄・睡眠・手洗い・食事・着脱・清潔など体系化した年間目標を作成したり、子どもが自分の健康に関心を持つことで健康管理や予防が自律するように、各種の生活習慣の習得についてはより習得意欲が湧く丁寧な保育が期待される。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 戸外で自由に身体を動かして遊んだり、また、サッカー・縄跳びなど、友達や集団での遊びを取り入れている。 それで、サッカーのサポーター巡回も楽しみな一つである。 また、地域のおひさま応援隊と一緒に野菜を育てたり、行政のわくわく絵本の会のメンバーによる絵本の読み聞かせなど、様々な大人との交流の機会もある。</p> <p>[検討課題] 各種の体験から、子ども自身が発見した遊びができて、それが発展していくような保育者の援助や方法などを検証していく機会を設けることで、子どもへの効果も言語化が可能で、保育者の育ちとともにそのやりがいも増すと理解したい。 また、子どもが見につける社会的ルールをリスト化したりして、どの保育場面で習得支援するのかなど、保育実践での教育的配慮についての更なる充実も必要であろう。 まずは、子どもが自らやってみようという気持ちを大切にしたい保育の実践が期待される。</p>
			⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。</li> <li>■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。</li> <li>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 床暖房で広い陽当たりの良い部屋で保育士が仲立ちとなって、子ども同士が仲良く過ごすことができる。 そして、ペットボトルを利用した手作り玩具などで遊び、毎日の連絡帳や毎月のクラスだよりで子どもの様子を保護者と共有している。</p> <p>[検討課題] 部屋の隅などに子どものお気に入りのコーナーを作るなど、環境設定の更なる工夫も期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 <input type="checkbox"/> 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]            保育者と一緒にダンボールで箱を作ったの新聞プールで楽しんで遊んでいる姿もある。            そして、家庭と毎日の連絡帳を通して園での生活の様子を知らせ、子どもの成長の共有に努めている。</p> <p>[検討課題]            ハード面の困難さであきらめることなく、子ども達の成長に合わせた部屋の中での探索活動を可能としたり、ゆったりとくつろげるような家庭的な配慮など、環境作りへの更なる工夫が期待される。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	<p>[取り組み状況] 3～5才まで、月毎の単元を決めて年間計画を作成している。そして、年齢ごとに1年間のテーマが決められており、学年ごとに毎月保護者等に子どもの姿を伝え、クラスだよりも発行・配布している。            また、毎月、年令に応じた体育・音楽・英語・せんのあそびなどの課題もあり、年長児はiPadの指導もある。            さらに、年長児には宿泊保育もあり、楽しみにしている。            一方、バラバラになった年長用、年少用のトイレのスリッパを直す子どもの姿も視られる。</p> <p>[検討課題] 整理整頓は何歳迄の習得とするのかや、一人ひとりの子どもに合った個性を更に伸ばす保育など、振り返りを活かす充実した取り組みが期待される。</p>
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>[取り組み状況]            支援を必要とする子どもには加配保育士を配置し、個別支援計画を立てて保護者等と連携を取りながら、発達の援助に努めている。            また、早期発見に努めて保護者等の理解を得るとともに、市の発達支援センターの臨床心理士・保健師等による巡回相談もあり、個別対応もなされている。</p> <p>[検討課題]            障害を想定しての施設内環境整備は、今後益々必要となっていくと思われる。            研修会への参加や園内研修を通しての職員の共通理解を深めて保育実践に更に活かすなど、保育士及び園の質を更に向上させる取り組みの充実が期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント	
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		<input checked="" type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	b)		<p>[取り組み状況] 3才未満児と以上児棟に分かれての長時間保育を行い、夕方5時にはおやつを提供がある。 なお、延長保育の子どもは増加傾向である。</p> <p>[検討課題] 延長保育も通常保育と同様に、その保育内容を記録する延長保育日誌を作ったり、家庭的でゆっくりと過ごせるようなスペースや死角を考慮したコーナーを作るなどの工夫も期待したい。</p>
		⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。		<input checked="" type="checkbox"/> 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	b)		<p>[取り組み状況] 小学校と保育園との合同研修会が実施されており、また、小学校の夏休みには低学年担当教師が3日間の保育体験研修を行い、保育及び園の理解を深めている。 そして、就学が近くなると、子どもは近くの学校へ出かけて交流会を持ち、手遊びや写真撮影などを通して楽しむとともに希望に繋げるなどの取り組みもある。</p> <p>[検討課題] 配慮の必要な子ども・保護者等には、小学校・障がい関係の専門職・園担当者を交えた、安心して見通しが持てる説明の機会など、更なる安心を提供する取り組みが期待される。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。		<input type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	b)		<p>[取り組み状況] 身体測定を毎月行い、その測定結果を保護者に伝え、また、既往症や予防接種等の情報は発育の記録から把握している。 そして、怪我や感染症の流行状況は園長、主任へ報告され、保護者へも報告し、その後の経過も報告し、記録されている。 なお、0、1歳児の昼寝の際は15分おきのプレスチェックを行っているという。</p> <p>[検討課題] 健康管理に関するマニュアル、保健に関する計画等の整備を進めたり、保健だよりを発行したりと、季節に応じた情報の発信も感染症の蔓延防止や予防の手立てとなると考えたい。 また、職員へのSIDSや窒息のリスク、応急処置に関する知識習得の機会の充実、そして、保護者へのそれらの情報の提供は必要であろう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	■	79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	[取り組み状況] 健康診断、歯科検診は年2回実施され、結果は保護者等に伝えている。歯科検診の結果、虫歯等があった場合は、治療が行われたかなど、その結果も確認している。  [検討課題] 歯科検診の結果で虫歯などがあった子どもには、歯磨き後に正しく磨けているかの点検など、各検査結果に異常がみられる子どもに対しては個別計画に盛り込んで保護者等と協力して、子ども自身が健康管理を意識できるようにする取り組みが期待される。
	■			80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。		
	■	81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。				
		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	■	82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	[取り組み状況] 入園前の面接にて食物アレルギーの有無を確認し、アレルギーのある子どもは医師の診断を受け、診断書を基に栄養士、調理員、担任、保護者などで確認を行っている。 また、毎月、次月の献立表を家庭に渡し、除去するものに印をつけてもらい、その後、栄養士が確認する仕組みとなっている。 なお、食缶受け取り時に担任が検食を行い、除去食に関しては誤配のない様に、調理員と担任が確認をしている。  [検討課題] アレルギー対応ガイドライン、アレルギー疾患、慢性疾患等に関する学習会を定期的に関くなど、全保育士が共通の理解を更に深めていくことが期待される。 併せて、好奇心旺盛な他の子ども達や保護者等に対してもプライバシーに配慮した統一した説明について、園の規定やその周知による意思統一は必要であろう。
	■			83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。		
	■			84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。		
	■			85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。		
	■			86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。		
	□			87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。		
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	■	88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。	[取り組み状況] 市の食育推進計画「元気もりもり食育プラン」の下に、給食が提供されている。 そして、園のおひさま畑ではジャガイモ、サツマイモ、野菜などを育て、苗植え、水やり、観察をすることで、成長に関心を持つての収穫の喜び、また、食への感謝を焼いも会で体験する機会も提供している。  [検討課題] 子どもの食生活の基盤は家庭にあり、望ましい食習慣の形成や食への意欲や関心を高めるため、食育だより等の発行による、保護者等との連携を更に深める食育の新たな取り組みが期待される。
	■			89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。		
	■			90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。		
	■			91 食器の材質や形などに配慮している。		
	■			92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。		
	■			93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。		
	■			94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。		
	■	95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。		<input type="checkbox"/> 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 <input checked="" type="checkbox"/> 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 <input checked="" type="checkbox"/> 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 <input checked="" type="checkbox"/> 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>一人ひとりの食べる量、好き嫌いを把握し、保育士が食べられる量を配膳し、嫌いな物も少しずつ食べられるように、また、楽しみながら食べられるよう声掛けをしている。そして、誕生会、運動会等、行事に応じた献立、季節感のある献立、郷土食が提供されている。また、誕生会には保護者等も招待され、子どもと一緒に給食を楽しむ機会が設けられている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>進学を意識した20分での完食や、それが困難な子どもへの個別計画への落とし込みとその実践など、さらに工夫した関わり方が期待される。また、食材産地をサンプルと一緒に掲示したり、県内産農産物の消費拡大は県を上げての取り組みでもあり、調理員だけでなく、全職員、保護者等への園の取り組みを周知するために、食材における割合などの掲示なども期待したいところである。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。		<input checked="" type="checkbox"/> 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>各クラス入口のホワイトボードに一日の活動内容が報告され、当日の読み聞かせの絵本が展示されている。そして、毎日、未満児は家庭での様子、園での様子が記入され、情報の交換が行われている。園だより、学年だより、クラスだより、園長だよりが発行され、学年やクラスの便りは名前が付けられており、親しみやすい手書きのものとしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保護者等の知りたい情報は、我が子が一日の活動の中でどう変化・成長したかである。家庭と園が一体となって適切な保育をするために欠かせないこの連絡帳について、記載内容についての検討は必要と思われる。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。		<input checked="" type="checkbox"/> 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 112 相談内容を適切に記録している。 <input checked="" type="checkbox"/> 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>保護者との信頼関係を築く取り組みとして、降園時に保護者に引き渡す際の会話を一人ひとり行っているものの、保護者からは待ち時間が長いと、改善の要望の声も上がっている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保護者からの相談を受ける体制はあるものの、相談や意見を受けた際の記録の方法や、報告の手順、対応策の検討等についてのマニュアル等の整備が進むと、保護者への対応も統一されたものとなり、更に信頼関係を深めることにつながると思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>b) □ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>□ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>□ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 虐待等権利侵害防止については実際に園内での事例があり、児童相談所等の関係機関との情報交換、協力はスムーズと思われる。</p> <p>[検討課題] 昨今、痛ましい事案も増えており、虐待の芽チェックリストの作成・活用や対応マニュアルの更なる整備を進め、マニュアルに基づく実践研修などで、疑いから行政・児童相談所との通報について、全職員の理解を更に深める取り組みを期待したい。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 週案・月案には反省・特記事項が記入され、自己評価され、園内研修の記録には職員一人ひとりからの感想が記録されている。また、保育士は年度末に「自己振り返り表」を使って自己評価を行っている。</p> <p>[検討課題] 年度末の保育士の振り返り表等での自己評価を次のステップへ活用する職員間での話し合いや、共有化を図る取り組みの機会を増やすなど、継続的・組織的に次の保育への改善が図れる取り組みが期待される。 なお、今回の自己評価では保育の言語化が遅れている面も多々視られており、チェック方式から根拠記載方式に改善するなどすると、振り返りや自己評価の効果もさらに増すと考える。</p>